

天 界 新 知 識

ドイツでコペルニク祭

此の春、ドイツの東プロイセン州ケニグスベルヒ市では、コペルニク・カント祭といふものを行はれた。コペルニクは、一般にはポーランドの生んだ學者と思はれてゐるが、このコペルニクが居住した Fauenburg 町は今はドイツ領になつてゐる關係上、大ドイツ國といふ立場から今日は彼れをドイツ人として取り扱つてゐる時勢である。尙ほ、之れに因んで、ライプチヒ大學の J. Hopmann 教授は C. L. Menzzer 氏と共に今回コペルニクの大著 *De Revolutionibus Orbium Celestium* を *Ueber die Kreisbewegung der Weltkörper* といふ表題でドイツ語に譯出した。又、ベルリン市ダレム區にある *Astronomisches Rechen-Institut* (天文計算局) は今回 *Copernicus-Institut* (コペルニク學院) と改稱された。

ラランド目録 21258 號星の伴星發見

此の星は赤經 $11^h 01.3^m$ 、赤緯 $+43^\circ 55'$ (1900年分點) にある 7 等星で、固有運動は毎年 $4''.5$ 、距離は 18.8 光年といふ近い恒星として有名であるが、本年三月、米國キルソン山天文臺の Van Maanen 氏は此の星の東方 $20''$ 、南方 $19''$ の所に 16 等級以下の一件星を發見した。しかるに此の伴星は珍らしい變星らしく、去る五月 11 日の夜には 14 等級であつた。スペクトルは M5e 型で、水素の β , γ , δ 等の輝線が皆同等に輝き、カルシウムの H 線や K 線も亦輝線である。計算によると、此の星は絶対光度約 16 等級の矮星である。

N. G. C. 4621 中の超新星

米國パロマ 1 山天文臺の Zwicky 氏は去る五月 19 日に又々楕圓形星霧 N. G. C. 4621 の中核より $49''$ 離れた所に 15 等級の新星を發見した。キルソン山の Minkowski 氏の觀測によれば此の星は超新星で、極大光度より 20 日ばかり経過してゐる由。

横濱に隕石(?)落つ

本年4月4日の白晝 12:30頃、横濱市保土ヶ谷區神戸下町469、古川電線職工、辻利慶氏妻女たか(34)が勝手にで晝飯の支度をしてゐると、ドンと云ふ物凄い大音響と一緒に、眞黒な鐵塊様の物體が屋根に落下、亜鉛葺の屋根をぶちぬいて、天井に大穴をあけ、奥6疊のたゞみにめり込み、更に餘力で、約2米先の襖に刎ね返つて襖にも大穴を開けた。此の隕石は一見粗雑な鐵鍍に似て居り、重量は4キロの由であるから、最近のものではなかなか大きい。

因みに大正9年新潟縣樺池村に落下したのは4キロ半餘あつた。(急報 345)
其の後の調査で、上記の石は隕石でないことが知れた。(急報346参照)

又、隕石(?)落下す

去る六月12日岐阜縣稲葉郡南長森大字切通、伊豆神社(村社)境内に隕石が落下した。

落下時刻は	16時頃
目 方 は	20匁位
大 き さ は	4.8×3.9×2.9匁
形 状 は	やゝ扁平な鶏卵形
表 面 は	黒色の輕石(火山に在る石)と類似

何れ詳細は後報する。(岐阜、正村一忠)(急報 351)

栄 え の 服 部 賞

四月下旬に開かれた日本天文學會では2年ぶりで「天體發見服部賞」を街の天文家に授與することに決定、アマチュア天文家の間に話題を賑はした。受賞者は静岡県島田町の本會々員清水眞一氏とその協力者三鷹天文臺の技手廣瀬秀雄の兩氏で、30年間雲隠れのダニエル彗星發見の功によるものである。

こんど受賞の清水氏のダニエル彗星は1909年プリンスン天文臺のダニエル氏の發見以來30年間行方不明となつてゐたものを、去る12年一月31日見事にこれをキャッチしたもので、本會は逸早く之を去る昭和12年十一月21日の總會席上で表彰した(本誌第201號卷頭)が、今回の「服部賞」授賞規定によると授賞は新星發見といふことになつてゐるが、多年天文學界から「行方不明」とされてゐたダニエル彗星の發見だけに清水氏の功績は大きく、このほど開かれた授賞査定委員會でもとくに新例を開いて兩氏を表彰することになつたものである。